

「安全・安心・快適」の精神受け継ぐ

アトミクス 代表取締役社長 宮里勝之氏

6月に新たに代表取締役社長に就任した宮里勝之氏。「増収減益からのスタートで苦しい部分もあるが、社内、社外を含め、より活気のある風土をつくっていきたい」と就任の抱負を語る。アトミクスの価値基準である「安全・安心・快適に寄与する製品づくり」を受け継ぎながら、着実に歩みを進めていく。

◇

——直近1年間は、塗料原材料の値上げが非常に大きな問題だったと思います。

「そうですね。特にメインで使用している材料が値上がりしています。また、容器など、あらゆるものの価格が高騰しており、その中で安定的に製品を供給しなければなりません。今は比較的安定してきたものの、品質は絶対に落とせないため、技術も含めて代替品の調達などに労力や時間を費やされた1年でした。幸い供給ができなかったという事態は避けられましたが、一時期は予算を許さない状況が続きました」

——一方で、今年はコロナも5類に移行し、本格的に経済活動が再開してきました。

「総会など組合関連の集まりが対面になってきたという意味では、従来の姿に戻ってきています。当社では、コロナ禍では時差出勤や在宅勤務などで感染防止に努めていましたが、現在でも、一部では在宅での勤務を継続している社員もいます。それぞれが良いパフォーマンスを発揮できるならば、現

状の体制でも問題はないと考えています。今後、ますます多様な働き方が求められていく中で、フレキシブルに対応していくことは必要になっていくと考えています。今後も社員からの発想や提案には耳を傾け、柔軟に対応していきたい」

——宮里社長は道路事業部で長く勤めておられました。

「道路事業部は、舗装材や路面標示、コンクリートの維持補修材だけでなく、標識や標示などの交通安全施設をデータベース化した道路管理サービスも手掛けるなど、サービスの幅を広げられました。需要としては官公庁の工事が多く、今のところ安定していると考えています」

——塗料事業部はどう見られていますか。

「塗料事業部は屋根用、床用ともに工場関連が主体となっています。ここ数年は営繕関係に力を入れており、ターゲットとなるお客様への訴求方法などが形になってきて、方向性が定まってきたという認識があります。近年ではドローンを活用した屋根診断システム『アトムサーベイスシステム』の認知も高まっており、遮熱塗料も引き合いを増やしています。更に、床用塗料ではセルフメンテナンスの需要に応えられる『リペアキッド 補修小僧』など、いずれもエッジの利いた製品でお客様の困りごとを解決してきました。他社が手を出しづらいニッチな市場で存在感を発揮していると感じています。社



会環境が目まぐるしく変化している中、道路事業と塗料事業がお互いに補いながら、更なる成長を図っていききたい」

——道路事業部、塗料事業部に共通する課題はありますか。

「水性化の更なる推進です。やはり安全・安心・快適を価値基準とする当社にとって、非危険物で溶剤と比べて臭いが少ない水性塗料の更なる普及は重要だと感じています。また、2024年問題に代表される物流業の変革の波が迫っています。現在でも危険物で重たい塗料は管理のしづらさや運搬際の負荷など、ただでさえ敬遠されがちだと思います。非危険物であることがどれだけメリットになるのかは未知数ですが、少しでも安全・安心・快適に運んでいただけるような製品づくりにもつながります」

——水性塗料の研究を長く続けてきている貴社の価値が、より高まりそうです。

「道路用材料では、いち早く水性のライン塗料を上市したり、屋根や床用の塗料でも水性化を手掛けてきました。またレイズ事業部で行っている防熱防

水材も全工程水性での施工が可能で、これからより訴求していく必要があります。また、施工する側が快適になるような製品や、CO₂削減に寄与する製品なども考えられます。研究開発をより活発化させながら実現していきます」

——現状での課題などはありますか。

「現在では、それぞれの事業所がいい意味で独立しているような形になっています。これは非常に良い面ではありますが、長期的に考えると、根底で全社員が一つになれる共通した目標やビジョンも必要だと考えています。そういう意味でも昨年85周年を機に行った経営理念や価値基準の明文化もその第一歩です」

——若手社員が中心になって作成したと聞いています。

「社員からの発案でプロジェクトを組んで、若い社員が中心となり策定したものです。ただ、もはや世代は関係なく、当社の社員として一丸となるように、目指していくベクトルを合わせていくことが非常に重要です。その中で、対面でのコミュニケーションなども更に増やしなが、共通した目標やビジョンを構築していきたいと考えています」

——今後経営していく上で、大切にしていきたいことは何ですか。

「塗料で社会に貢献するという事です。時代によって伝え方は変わっていますが、創業時の精神として昔から当社が大切にしているところです。我々は製造業が本業のため、お客様が価値を認めていただける製品をつくり出すのが使命です。それをいち早くかたちにすることで、塗料メーカーとしてお客様の困りごとや社会課題を解決していきたい」

——ありがとうございました。